

I. 平成30年度 第2回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成30年9月26日(水) 清瀬市 清瀬けやきホール 第3会議室

I. 平成30年度 第1回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨

平成30年度第1回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。

II. 新河岸川流域川づくり連絡会活動協議事項

1. 第14回 川でつながる発表会について

■主な意見等

〈現地見学会について〉

- ・ 柳瀬川沿川を歩く際、右岸側を歩いた方がよい。ただし、歩く場合には自然の土手を歩くので、参加者に注意を呼びかけた方がよい。

■決まったこと

- ・ 発表会は2/2(土)に、アミューホールにて開催する。
- ・ 清瀬金山緑地公園、金山調節池、清瀬水再生センターを見学施設とする。
- ・ 参加予定校は、法政大学水文地理学研究室、自由学園男子部高等科、清瀬市立第四中学校、清瀬市立清明小学校、所沢市立上山口中学校とする。
- ・ 清瀬市、東大和市は交流会にてパネル展示を行う。

2. 里川87号について

■主な意見等

〈特集記事について〉

- ・ 今年は台風による災害が多かったため、流域住民の意識が高いうちにハザードマップの活用方法を紹介できればよい。
- ・ ハザードマップの入手・閲覧方法を解説した方がよい。
- ・ 住んでいる地域の標高と水害の関係を意識させるような内容を盛り込めるとよい。
- ・ 内水はん濫と外水はん濫の区別を理解してもらえる内容となるとよい。
- ・ 地名と水害リスクの関係についても触れることができるとよい。

■決まったこと

- ・ 川まつり開催報告の記載内容は、事務局より各川まつり担当者に確認をする。
- ・ 特集記事は、水害リスクへの意識を醸成するために、ハザードマップの活用方法を紹介する内容とする。

III. 勉強会

「豊かな自然とにぎわいのある川～多自然川づくり と かわまちづくり～」と題し、公益財団法人 リバーフロント研究所による講演が行われ、連絡会メンバーと意見交換した。宮本主席研究員より多自然川づくりポイントブックに沿った川づくりと行政と住民協働の「小さな自然再生」などの取組事例について説明があった。

■主な意見と回答

- 災害後、原型復旧を行う際に多自然川づくりをするように多自然川づくりポイントブックに記載されているが、実際にはそのような事例はあるか。現場の行政担当者の方は悩んでいると思う。
→岩手県の小本川では、激甚災害指定を受けており、災害復旧の機会に多自然川づくりを行ったと聞いたことがある。(荒川下流河川事務所回答)
- 原型復旧の際、現場の行政担当者を支援するため、「多自然川づくりアドバイザー制度」により、研究所から専門家を派遣し助言をしている。(リバーフロント研究所回答)
- 既設のコンクリート三面護岸の川において、多自然川づくりを行う工夫等はないか。
→工夫を行っている様々な事例はあるが、その方法が各河川で本当に適しているのか、技術的な検討は必要だと思います。(リバーフロント研究所回答)
- 多自然川づくりは治水につながるのか。
→多自然川づくりは景観や環境に配慮しているだけではなく、流下能力も確保する考え方である。(リバーフロント研究所回答)
- 本日のような勉強会を東京都・埼玉県が主体となって開催してほしい。(市民団体より)

IV. その他

- ・ 次回連絡会は12月～1月に、清瀬市内の公共施設で開催する予定とする。
- イベント
 - ・ 11月24日 第4回川ごみサミット in 下諏訪 下諏訪総合文化センター
 - ・ 10月21日 黒目川クリーンエイド・「カップのクウのクリーン作戦」 本村小学校